

一般財団法人

大阪はびきの観光局 ～おしらせ～ Information



③古市古墳群の保全活動から学ぶのプログラム
墓山古墳の外濠に使い捨てカイロから生成する水質浄化剤の役割があるGo Green Cubeを投げ入れる様子

教育旅行プログラムを3つ造成！ ～万博に訪れる教育旅行団体を誘致～

大阪はびきの観光局では2025年の万博に向けて、教育旅行団体が羽曳野を訪れて学んでもらえるようにと、旅行会社と連携し次の教育プログラムを3つ造成しました。

- ①古市古墳群の保全活動から学ぶ ※右上写真
周濠部の水質浄化は環境整備の中でも一つの課題となっています。この課題を解決するため、水質浄化の取り組みについて考えます。
- ②ワイン・ブランディング戦略から学ぶ
大阪は昭和初期のぶどう出荷額が全国1位。いかにして大阪ワインを広めていくか。そのブランディングの取り組みについて考えます。
- ③はにわづくり体験 市民が取り組むまちづくり
はにわづくりを通して、羽曳野市の魅力や観光資源を発信している地元企業「大蔵屋」から、観光目線でのまちづくりを学びます。

2024年10月と11月には修学旅行等で約400名の生徒が、この教育プログラムを体験しに羽曳野までお越しいただけます。2025年(万博開催年度)に向けさらなる誘客に取り組みます。

大阪はびきのヌーボー出荷開始

今年の猛暑に収穫したデラウエアを醸造したワインが、10月初旬から各ワイナリー(飛鳥ワイン・河内ワイン)にて販売されます。この夏は少雨のため品質の高いデラウエアを収穫し醸造することができました。今年の新酒(ヌーボー)をぜひ味わってみてください!



問合せ 大阪はびきの観光局 ☎959-2261

万博連載コラム 第4回 万博の魅力②「いのちの未来を考えてみませんか」

大阪・関西万博の魅力の2回目は、「いのちの未来を考える機会」です。「いのち」をテーマにした史上初の万博として、様々な切り口から「いのち」に迫ります。

○テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」

大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。人間だけでなく地球上の全てのいのちが輝く未来社会をどう実現するか。一人一人がいのちの未来を自ら考え、世界と共にデザインすると願いが込められています。個人的には素晴らしいテーマと思いますが、具体的に分かり難いとのこと意見も耳にします。万博を通じて一人一人がいのちの未来を自分事として考え、主体的・能動的にデザインして欲しいとの意図を汲み取って頂ければ幸いです。

○シグネチャーパビリオン

このテーマに真正面から取り組むのが、博覧会協会が設置するテーマ館です。シグネチャーパビリオンと呼ばれ、70年大阪万博における岡本太郎氏による太陽の塔や丹下健三氏による大屋根に相当します。今回は各界の最前線で活躍する8人のプロデューサーが8つのパビリオンを出展します。8つの切り口(いのちを知る、育む、守る、つむぐ、拡げる、高める、磨く、響き合わせる)でいのちの多様性に迫るチャレンジです。博覧会協会と8人のプロデューサーは、2020年から数十回に及ぶ会議を重ね、構想を練り、賛同する方々を募って準備を進めてきました。その成果がいよいよ皆さんの前に現実化します。皆さんもこの機会に、自分のいのち、そして地球上の全てのいのちが輝く未来社会を考えてみませんか(以下QRコード参照)。



○いのちを表すミャクミャク

ミャクミャクも「いのち」を表現したキャラクターです。2022年3月に1,898作品の中から選ばれました。作者の山下浩平氏によれば、ロゴマークをそのままキャラクターに出来ないかな?とのアイデアの下、「水の都」の水と一緒にすることで、姿を変えられることをコンセプトに生み出したそうです。赤い部分は細胞で、胴体の青い部分は清い水を表しています。ミャクミャクという名前は、一般公募33,197作品から選ばれ、過去から未来へ様々なものを「脈々」と受け継いでいって欲しいとの意味も込められています。ここに来て、ミャクミャク商品も相当ラインナップが充実してきました。公式ライセンス商品を販売する全国各地のオフィシャルストアやオフィシャルオンラインストアで購入できますので、是非ともご覧頂ければと思います。



2025年4月13日(土)～10月13日(日) 大阪 万博